

広告

石狩暮らし

市民の“十人十色”な暮らしを、ご紹介します。



- ① 創立30周年を迎える「石狩ひまわり手輪の会」。ここでは手話の学習以外にもごみの分別や救急救命などの講座も開催。耳の聞こえる人も聞こえない人も一緒に学べる場を設けています。
- ② 石狩ひまわり手輪の会の玉手千晶会長。
- ③ 手話は“見る”言語。口の形や顔の表情も大切な要素の一つです。
- ④ 花川北コミセンをメイン会場に開催した「第53回全道ろうあ者大会」を終えて(平成24年9月)。

手話条例のあるまちで

手話サークルが目指すこと

玉手千晶さん(63)が手話に出会ったのは19歳のとき。偶然のぞいた札幌の手話サークルで、表情豊かに手話を使うろうあ者の姿に魅せられたといいます。「そこには50人ほどのろうあ者の方がいました。メールもファクスも無い時代。彼らの大切な情報交換の場だったんです」

夫の裕さんと出会ったのも同じサークル。「彼は、両親ともに耳が聞こえないため、とても手話が堪能。よく通訳にかり出されるのを見て、私も手話通訳者に憧れました」

それから20年以上、玉手さんも札幌市の手話通訳者として活躍。その後平成17年に石狩へ移

り住み、「石狩ひまわり手輪の会」に入会しました。「石狩で久しぶりにサークルに入ったらもう楽しくて、居心地がいいんですね」

結束力に驚いたのは平成24年の「全道ろうあ者大会」で。700人規模の大会をこのまちでできるのかと不安に思う玉手さんをよそに、皆がどんどん一つになっていくのを見て「これまで味わったことのない感覚で…素晴らしいものでした」

大会では大きな実りも。田岡市長が手話条例の制定を目指すことを宣言。その言葉通り「石狩市手話に関する基本条例」が4/1に施行されました。玉手さんは言います。「私たちにできるのは、手話とは何かを伝えること。手話は豊かな表情で、思いを真っすぐに伝える言語。裏表のない、安心できる言語と市民の方に感じてもらえたら」

石狩ひまわり手輪の会

昭和59年に結成。会員数は現在22人。石狩聴力障害者協会会員の参加・協力を得ながら、りんくろで毎週木曜に活動。手話でゲームを楽しんだり、会員以外も参加できる焼肉パーティーも開催。市内のほかの手話サークルやろうあ者団体と合同クリスマス会も実施します。

会員は随時募集中。興味のある方は下記へお問い合わせを!

問合せ ☎73-5123
(玉手さん)

